

新病院のコンセプト「議論の素案」として提示

奥能登の医療の未来を『創造』し、 “日本のふるさと”の未来の『希望の光』となる

◎大震災・豪雨災害に見舞われ、人口減少が加速した奥能登地域は、[日本の未来の縮図](#)である。人口減少社会に適応しながら、持続的な地域医療提供体制（＝[奥能登医療モデル](#)）を確立し、人口減少に悩む日本のふるさとの大きな希望の光となる。

1. 「新病院とサテライトへの再編」による新たな医療モデルの構築

- 新病院に救急医療機能や入院機能を集約し、サテライトの外来機能や在宅医療機能を強化する。「[医療の質](#)」（[医療DXの活用による専門医療との繋がり](#)）と「[医療へのアクセス](#)」（[生活の中の医療](#)）、「[医療の効率化](#)」（[再編統合による持続可能性の強化](#)）のバランスを図る。

2. 日本の50年先の未来を先取りする超高齢化社会の生活支援型医療への転換

- 能登の健康課題を住民とともに解決する[総合診療医](#)などを重点的に配置し、「[生活者の健康・暮らし・尊厳を守る生活支援型医療](#)」へ[モデルチェンジ](#)する。多疾患（マルチモビディティ）を抱える高齢患者に予防的に介入し、救急搬送・入院医療を減らす。

3. 健康×コミュニティの統合

- 「病院」の枠に留まらず、近隣の保健所とも連携し、「健康」（専門職）と「コミュニティ」を統合する仕組みづくりに貢献し、[スマートウェルネスシティ](#)を構築する。

4. 意欲に満ちた外部人材を確保する循環型ネットワークの構築

- 地域医療や災害医療・震災復興を実践する[フィールド・研修環境](#)を整え、県内の大学・病院・医療関係団体と連携した[循環型の人材派遣ネットワーク](#)を構築し、意欲に満ちた外部人材を確保する。

5. 医療DXの徹底的な活用による医療の質の向上

- 医療DX（例、[オンライン診療](#)、[モバイルクリニック](#)など）を徹底的に活用し、「病院に行く医療」から「[医療が来る社会](#)」への転換を図る。また、[高度急性期病院と緊密な連携](#)（[情報共有](#)、[人的交流](#)）のもと、質の高い医療を提供する。